

プロフェッショナル組織におけるマネジメント・コントロール・システムの有効性：英国プロサッカークラブのケース

角田，幸太郎

<http://hdl.handle.net/2324/2236018>

出版情報：九州大学，2018，博士（経済学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名	角田 幸太郎			
論 文 名	プロフェッショナル組織におけるマネジメント・コントロール・システムの有効性—英国プロサッカークラブのケース—			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	丸田 起大
	副 査	九州大学	教授	大下 丈平
	副 査	九州大学	教授	大石 桂一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、プロフェッショナル組織としてのプロサッカークラブにおいて、マネジメント・コントロール・システム（Management Control System、以下 MCS）が体系的に構築・運用されており、MCS の効果をもつ方向に改善していくにつれて、チーム成績も向上していったプロセスを、MCS 理論の観点から経時的に分析・考察した研究である。

プロフェッショナル組織におけるMCSに関しては、病院など非営利組織をリサーチサイトとする研究は存在しているが、プロサッカークラブのようなプロフェッショナル組織におけるMCSの有効性については研究が進んでいないのが現状である。これに対して、本論文では、英国プロサッカーリーグのオックスフォード・ユナイテッドの協力を得て、4シーズンにわたって計17回訪問し、監督、オーナー、スタッフ、選手など、延べ37名へのインタビューによる事例研究をおこなっている。それをもとに、MCSの具体的な仕組みやその変化について、Merchant and Van der Stedeの成果コントロール・行動コントロール・文化コントロールというMCSのフレームワークなどに依拠して分析をおこない、既存のMCS理論の説明力や修正の必要性について考察している。

その結果、ビッグクラブではなく、単年契約の選手が主体の下部リーグの小規模なプロサッカークラブでも、個人成績にもとづく成果コントロールだけでなく、100項目を超える定量的な KPI を駆使した行動コントロールや、チーム成績にもとづくボーナスや罰金制度を用いた文化コントロールが実践されており、理想的で体系的な MCS が構築・運用されていること、また、MCS の経時的な変化を追跡すると、インセンティブ強度、客観性、管理可能性、適時性、公平性といったコントロールの有効性の要素が高まっており、それがチーム成績の向上という形で現れていたこと、そして、チームスポーツのプロフェッショナル組織では、行動規範や集団報酬を用いた文化コントロールを重視することがとりわけ効果的であること、などを明らかにしており、貴重な学術的貢献として高く評価できる。

以上の調査結果から、本論文調査会は、角田幸太郎氏より提出された論文「プロフェッショナル組織におけるマネジメント・コントロール・システムの有効性—英国プロサッカークラブのケース—」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。